

全国協議会 ニュース

2024年11月1日発行 第387号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

移植医療対策推進室長に 島田志帆さんが就任されました



造血幹細胞移植を担当する厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室長に、島田志帆さんが就任されました。

自己紹介、職務に当たる思いとともに、患者さん、ドナーさん、そしてボランティアの皆さんへのメッセージをお寄せくださいました。

令和6年8月1日付で移植医療対策推進室長に着任した島田志帆です。全国骨髄バンク推進連絡協議会会員の皆様には、日頃より骨髄移植の推進にご尽力賜り、深く感謝申し上げます。

私は医師免許取得後、救急医療を中心とした1年間の臨床経験を経て、平成16年に厚生労働省に入省し、平成17年からは当時の健康局臓器移植対策室で骨髄移植政策に携わりました。患者と医療機関だけでは成立しない、提供者（ドナー）とのつながりが不可欠な特殊な医療政策に再び携わることができ、大変感慨深く感じています。これまで、国際保健や医療提供体制の検討、がん対策、難病対策、さらには文部科学省に出向しての医学教育政策等、多岐にわたる政策に従事してきました。これらの経験を活かし、二度目の移植対策に、全力で取り組んでまいります。

私が臓器移植対策室を離任した後、平成24年に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が成立しました。この法律では、国やバンクの責務や、国民の理解促進、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血造血幹細胞に関する情報提供、バンクの安定運営確保等が規定されています。この法律により、円滑かつ適正な造血幹細胞移植に向け、国の責務として骨髄移植政策に取り組んでいます。

さらに、造血幹細胞移植推進拠点病院事業も進展しています。この事業は、造血幹細胞移植を受けようとする患者様が、どの地域の病院でも、疾病の種類や治療ステージに応じた最適な移植を受けられるようにし、移植後も質の高い生活を送り、長期のフォローアップを受けることができる医療提供体制の構築を目指しています。平成25年度から各地域に拠点病院を設置し、令和元年度までに全国8ブロック9施設（関東は2施設）で事業を実施しました。その後、厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会での議論を踏まえ、令和2年度より新体制（全国9ブロック12施設）で事業を実施しています。このような国の支援に加え、本協議会やボランティアの皆様方のおかげで、令和6年3月時点でドナー登録者数は554,123人に達し、骨髄・末梢血幹細胞移植の実施数は28,475件と、非常に多くの患者様が救われています。

しかし、一方で引き続き取り組むべき課題もあります。例えば、若年層へのドナー登録促進の強化です。ドナー登録者総数は増加していますが、最も多い年齢層は令和5年3月末時点で50歳と高齢化しています。50代のドナーは健康上の理由等からコーディネーターリタイアとなる割合が高く、ドナーとして登録できる年齢は54歳以下で、登録取消年齢は55歳です。このため、今後ドナー数の減少が危惧され、コーディネーターへの影響が予測されます。したがって、若年層ドナーの確保が急務です。このような状況を受け、令和元年度からは若年層が多く集まる献血ルームに講習を受けたドナー登録説明員を配置し、学校等でのドナー登録会を開催するなど、現場での重点的かつ積極的なドナーリクルートを行っています。また、国においてもSNSを活用した若年層への働きかけに取り組んでいます。

引き続き、ボランティアとして現場での取組を支えてくださる方々や、見ず知らずの患者様の命を助けたいとの尊い意思でドナー登録をさせていただいている方々の思いをしっかりと受けとめ、骨髄移植等を必要とされる患者様が一日でも早く最適な医療を受けられるよう努力してまいります。今後とも一層のご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

引き続き、ボランティアとして現場での取組を支えてくださる方々や、見ず知らずの患者様の命を助けたいとの尊い意思でドナー登録をさせていただいている方々の思いをしっかりと受けとめ、骨髄移植等を必要とされる患者様が一日でも早く最適な医療を受けられるよう努力してまいります。今後とも一層のご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

2024 全国骨髄バンクボランティアの集い (5/25) の様子を YouTube で公開いたしました。ホームページからご覧いただけます。是非ご視聴ください。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP (10月15日発行) より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状 (2024年9月末現在)

	8月	9月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,599	2,828	558,988	977,069
患者登録者数	180	190	1,687	69,764
採取数	骨髄	54	56	26,694
	末梢血幹細胞	38	30	2,301
	合計	92	86	28,995

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■9月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム / 858人、献血併行型集団登録会 / 1,906人、集団登録会 / 6人、その他 / 58人

■9月の年齢別ドナー登録者数 (現在数)

10代 4,642人 / 20代 95,145人 / 30代 136,762人 / 40代 212,180人 / 50代 110,259人

■9月の20歳未満の登録者 273人

注) 数値は速報値のため訂正する場合があります。

日本骨髄バンク 岡本理事長を訪問

10月18日(金)、新しく公益財団法人日本骨髄バンク(以下、バンク)の理事長に就任された岡本真一郎氏に梅田正造理事長、山崎裕一理事がご挨拶のため訪問しました。

冒頭、岡本理事長からは取り組むテーマとして、「サステナブルな(持続可能な)骨髄バンクを目指して活動に取り組んでいく」というご挨拶がありました。現在、骨髄バンクは55万人を超える方々に登録していただいています。一方で登録者の年齢中央値が高いなどの課題があります。ドナープールに残ってくれる若い人たちを確保していくことが大切である。若いドナーが残る発展性のあるドナープールを構築することが大切、ドナーリテンションにもしっかりと取り組んでいくとのことでした。

また、白血病などの難治性血液疾患の治療について、様々な移植法がある

中、ソースを競うものではなくバンクとしても方向性を持つべきであり、将来あるべき方向性を定めた上で、移植を必要とする全ての患者さんに最適な時期に造血幹細胞を提供していく、というお考えも示されました。

梅田理事長との間では以下のような意見交換もありました。

「若い人は健全な考え方を持った真面目な人が多い。そのような人たちに対して、効果的な情報発信をしていく必要がある」

「効果的な情報発信のために、バンクと全国協議会が相互のネットワークを活用し合うなどの更なる協力も必要である」

現在、バンクと全国協議会が定期的な協議、意見交換を現場レベルで行っているという点についても大変好意的なご意見をいただきました。バンクと全国協議会では活動の領域は異なりま

すが、患者さんのための活動を目指すという共通目的の中、新しい協力関係が構築されていくことが期待されます。

基金給付を受けた方からの メッセージ

佐藤さち子記念 造血細胞移植患者支援基金

骨髄移植をしなければいけないという事を知って、自分自身の精神面が不安になっていく中で、仕事も辞め長い入院生活に入るときには医療費を含め、いろいろな事を考えました。ただ入院後、病院のソーシャルワーカーの方からこちらの基金の事を教えていただき、そして助成していただいたのは、今現在まだ社会復帰出来ない自分にとって大きな助けになります。今後も自分と同じように移植で不安になっている方々へ、出来る限りの助成を希望いたします。この度は助成していただきありがとうございます。

(九州地方在住 患者ご本人)

アジア太平洋地区 移植医療向上への協力

全国協議会では国際機関との協力の一環として、アジア太平洋造血細胞移植学会(APBMT)を通じ、アジア各国の若手医療従事者の研修等を支援しています。かつて岩手県骨髄バンク推進協議会からアジアの移植医療の発展のため、全国協議会に託されAPBMTに提供した資金を活用して研修を受けられた先生から報告をいただきました。全国協議会ではチャリティマイルージによる研修の際のエアチケットの提供も行っています。



ズルフィア・ジナット・チョウドリーさん：中央

私は今回、アジア太平洋地区の若手医療関係者のための育成助成金をいただき、バングラディッシュの血液内科医として5月2日から29日までシンガポールのSingapore General Hospitalで研修を受ける機会をいただきました。研修の主な目的は世界有数の造血幹細胞移植施設で、造血幹細胞移植の管理の手順・方法及び移植患者への対応の仕方を学び、それを自国の施設における移植医療に生かすことです。

研修初日から全ての移植に関する臨床現場での活動や勉強会に参加をさせていただくことができました。

バングラディッシュにおいて今後必要不可欠となる造血幹細胞移植全般及びCAR-T細胞療法の標準作業手続きについて理解し学べたこともとても大きな経験となりました。

また、末梢血幹細胞採取や保存方法、無菌室の管理、そして凍結保存の技術についても視察することができました。全身放射線照射を用いた骨髄破壊的移植の全ての手順を見ることができ、また臍帯血センターへ訪問をすることができたのも私にとっては全く新しい経験でした。私は研修期間中に支持療法、ドナーリンパ球輸注、合併症管理を伴う初回またはそれ以降の移植

を受けたさまざまな血液悪性腫瘍の約60例を経験することができました。

日々の日課としては、朝夕の回診、移植後の合併症や長期フォローアップのための外来診療への同行およびさまざまなミーティングへの参加などがありました。さらに研修期間中に開催されたAnnual Scientific Meeting 2024に参加し、海外からのたくさんの医師たちのスピーチを聞くことで、移植医療だけでなく各分野における最新の知識を得ることもできました。

この研修で得られたことは全て私の今後の医師生活にとって大きな財産となりました。

バングラディッシュに戻った後は、今回の研修で得た知識を生かし自信を持って自国の造血幹細胞移植チームの一員として患者さんの治療に貢献していきたいと思っています。

このような機会を作っていただいた全国骨髄バンク推進連絡協議会およびAPBMTに深い感謝を示したいと思います。

(ズルフィア・ジナット・チョウドリー
バンガバンドウ・シェイク・ムジブ医科大学
血液内科：翻訳 APBMT 事務局)

2024 グリーンリボンランニングフェスティバルに参加

10月14日(月祝)に駒沢陸上競技場(東京都世田谷区)でグリーンリボンランニングフェスティバル(NPO法人日本移植者協議会等主催)が開催されました。移植医療への理解を深めるためのイベントで、秋晴れの空の下、ランナー8人と応援ボランティア11人がご参加くださいました。神奈川骨髄移植を考える会「チームBMT」ランナーからの感想を紹介します。



「1人は皆のために。皆は1人のために」これは私が小学生の時、担任の先生がよく言っていた言葉です。ありきたりではありますが、今でもふとした時にこの言葉を思い出します。

はじめまして、中川翔太と申します。グリーンリボンランニングフェス

ティバルには今年で3回目の参加になります。参加種目は42.195kmリレーで、「チームBMT」のメンバーと1周約2.5kmのコースを17周、タスキをつなぎながら走りました。

私のチームメンバーは骨髄移植をされた方、知り合いや身近な大切な人が骨髄移植をされた方、そして私の様に、このイベントで骨髄バンクを知り少しでも協力できればと参加した方。「骨髄バンクにご協力ください」黄色いタスキを皆でつなぐ42.195km。そこにはもちろんランナー、そしてそれを沿道から応援してくださるボランティ

アの方々、コースで整備をしてくださったイベント関係者の方々。黄色いタスキが目立ち、公園に来ていた子どもたちの「骨髄バンクの人、頑張ってる」という声援。

走っているのは自分1人でも、皆が自分のためにしてくれていること。そして自分もタスキをつなぎ皆のために走れること。

このイベントを通して自分が誰かのためにできること、そして誰かが自分のためにしてくれていることがあるのだと再認識でき、とても有意義な時間を過ごせました。

臓器提供、まだまだ言葉だけが一人歩きしていて、聞いた事あるけど…という現状かと思います。今回の様なイベントを通して、助かる命・助かった命があることをたくさんの人に知ってもらい、誰かのためにと一歩足を踏み出してほしいと思いました。

(チームBMT 中川 翔太)

明日への扉30周年 大阪・関西万博での公演決定

滋慶学園 COM グループ社会貢献 ミュージカル「明日への扉」とは

1994年2月初演。骨髄移植や骨髄バンク事業の現実を知った学生たちが「私たちにできることは何か」と考え、企画・制作・出演をし、30年受け継がれてきた社会貢献に取り組むミュージカルです。学生たちは、このミュージカルを通じて一人でも多くの人に骨髄移植によって助かる命があることを伝えます。

2024年は9月12日(木)、9月13日(金)「ザ・シンフォニーホール」一大阪市福島一にて行われました。2日間3公演で総来場者数は約3,000名。出演者スタッフ490名の在校生で実施された満席の公演は、どの公演も最後にはスタンディングオベーションをいただくものになりました。

またこの取り組みに協賛いただく180社以上の企業の支援もあり、大阪公演は大成功を収めることができました。

推薦 厚生労働省

後援 公益財団法人 日本骨髄バンク / 一般財団法人 夏目雅子ひまわり基金 / 大阪府教育委員会 / 大阪市教育委員会 / FM大阪

いのち輝く未来社会をめざして

学生が作ったこの舞台は、2025年6月16日(月)大阪・関西万博内 EXPOホール「シャインハット」にて「大阪・関西万博 開催内定」しました。

白血病をテーマにしたミュージカル「明日への扉」は在校生の手により30年間続けられてきました。その中で23万人を超える方に感動を届け、骨髄移植の理解やドナー登録によって助かる命があることを伝え続けています。

いのち輝く未来社会を目指して「生きることの素晴らしさ」を伝え、「い



のちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」大阪・関西万博のテーマにも通ずる想いを未来につなげていきたいと思っています。

全国で想いを繋いでいく

滋慶学園 COM グループの取り組み

滋慶学園 COM グループで学ぶ在校生たちは社会貢献に取り組んでおります。

(明日への扉 実行委員会 亀田隆史)

「明日への扉」

●東京公演 江戸川区総合文化センター
2024年12月13日(金)

第183回 開場 12:30/開演 13:00
第184回 開場 17:30/開演 18:00

2024年12月14日(土)
第185回 開場 13:30/開演 14:00

「Hospital Of Miracle」(「明日への扉」の趣旨を受け継ぐ骨髄移植推進を訴えるミュージカル)

●神戸 神戸明石市民会館 アワーズホール
2024年10月3日(木) 開場 17:00/開演 18:00
2024年10月4日(金) 開場 15:00/開演 16:00

●福岡 キャナルシティ劇場
2024年10月18日(金) 開場 17:00/開演 18:00
2024年10月19日(土) 開場 14:00/開演 15:00

●大阪 森ノ宮ピロティホール
2024年11月21日(木) 開場 17:00/開演 18:00
2024年11月22日(金) 開場 16:00/開演 17:00

●仙台 太白区文化センター 楽楽ホール
2024年12月5日(木) 開場 17:00/開演 18:00
2024年12月6日(金) 開場 14:00/開演 15:00

●札幌 札幌市教育文化会館
2024年12月18日(水) 開場 16:30/開演 17:00
2024年12月19日(木) 開場 14:30/開演 15:00

●名古屋 アートピアホール
2025年1月17日(金) 開場 17:00/開演 18:00
2025年1月18日(土) 開場 15:00/開演 16:00

22年ぶりにプロジェクトXアンコール放映

22年ぶりにNHKプロジェクトX挑戦者たち「決断命の一滴～白血病・日本初の骨髄バンク～」が地上波で9月28日(土)、10月5日(土)に放送されました。しかも、3分ほど長い放送時間になるので、NHKの担当者から「どういふことを増やしたいですか」と聞かれ、当然のことながら、「最新の骨髄バンクを取り巻く環境と最新の医療情報」と答えました。

3分という限られた時間ではなかなか厳しい注文だったかな、と正直思ったものの、スワブでの登録(トライアル中)の案内や、末梢血幹細胞移植、さい帯血移植の紹介もできたので、視聴者の皆さまには22年の時の流れを実感していただけたのではないのでしょうか。ただ、若年層への登録推進につながったかどうかですが、私がときどき更新しているブログ「大谷貴子 白血病今昔物語」へのアクセス数がいきなり2万近くになっており、ブログにたどりついたきっかけのほとんどが「検索エンジン」だったことは若者のテレビ離れと言われる今でも十分に期待できるなと感じたものです。

そして、なんと、東海骨髄バンク創

設時にお世話になった村瀬昌弘弁護士の子さんからブログにコメントをいただいたのです。村瀬弁護士は、ある日突然お亡くなりになり、白血病であった私が、何もお病気のなかった村瀬先生をお見送りしなければならず、本当にショックでした。当時、村瀬先生が熱い想いで多くの弁護士の先生方を誘ってくださったので、今の骨髄バンクのコーディネーター時の立会い弁護士さんの存在があるのです。

22年というときを経て、骨髄バンクは本当に多くの方々のご尽力があったこそ、と感謝をするひとときでした。(大谷貴子：日本初の骨髄バンク設立を目指した1人として出演)

この番組は22年前の平成14年2月26日に放送され、その2年後の平成16年3月9日にも放送されました。その後プロジェクトXの放送は終了されましたが、今回は新・プロジェクトX挑戦者たちの放送の中で、旧作アンコールとして再放送されたものです。

放映後、「テレビを見た」との多くのご連絡をいただき、テレビの影響力

を実感するとともに、命をつなぐことについての理解の広まりを感じる事ができました。

骨髄提供したのは、平成元年9月です。提供してから34年が経過しています。白血病の治療に有効な治療法である骨髄移植をすべての患者さんに受けていただくことが出来るようにとの思いから、骨髄バンク設立を目指して立ち上がった皆さんの呼びかけに呼応して登録をしたのです。

患者さんと適合したと連絡を受けた時、患者さんの命も、私の大事な子供の命も同じ命だと思えることが出来て提供に至ったものです。

その後、医療関係者の努力や研究もあり、今では病気特定の分子にのみ作用する分子標的治療薬が開発されたほか、造血幹細胞移植は臍帯血移植やハプロ移植も行われるようになり、どの患者さんも適切な治療を受けることが出来るようになってきましたことは喜ばしいことです。

骨髄移植も含めて白血病の治療を進めるため、献血や骨髄ドナー登録がさらに広まりつづけることを願っています。

(田中重勝：非血縁者間移植第1号ドナーとして出演)



熊本
骨髄バンクくまもと 啓発イベント「骨髄バンクの輪を広げよう！」



今年、結成から7年目を迎えた「骨髄バンクくまもと」です。現在は20名の会員で、月に15回程度の登録会を行なっています。

今回初めて啓発イベント「骨髄バンクの輪を広げよう！」という取り組みを行いました。10月13日(日)イオンモール熊本のイベントスペースで、

広く骨髄バンクについての啓発活動を行うことを目的として、紙芝居「骨髄バンクってなあに?」、全国骨髄バンク推進連絡協議会の公式アンバサダー：山本雅也さんの啓発ライブなどを行いました。また「トーク会」では、元患者さん、ドナー経験者さん、説明

員さんが登壇されて、それぞれの立場から経験を聞くことができました。

会場に立ち寄られた多くの方々が、骨髄バンクについて知る機会となりました。

(骨髄バンクくまもと 甲斐英子)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●9月21日～10月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般 菊水酒造株式会社 現金 500,000円 鏡湖 大 現金 430,000円 大橋 洋典 現金 20,000円 細川内科クリニック細川和弘 現金 3,000円 匿名 現金 1,000円 ●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金 本田 真奈美 現金 5,000円 日根 和美 現金 1,000円	●募金箱 株式会社 クスリのアオキ 現金 1,139,654円 株式会社 マルト商事 現金 82,386円 株式会社 ナルックス 現金 26,976円 株式会社 フクヤ 現金 13,735円 金寿司 現金 5,000円 株式会社カンセキ若草店 現金 1,649円	株式会社カンセキ駅東店 現金 3,937円 TRAILAR BURGER 99 現金 9,780円 イオン都城店 現金 8,292円 フランス亭 現金 7,164円 グリーンリボンランニングフェス 募金箱 現金 6,700円 ●つながる募金 現金 16,300円 ●キモチと。 現金 69円
---	--	---

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。